

饗宴の杯に

(昭和二十三年寮歌)

中坪清八君 作歌

堀井洵君 作曲

一

饗宴の杯に淡れゆく
手稲の峰に今しばし
追憶止めて涙する
逝く水はやき三春秋の
絵巻はやがて尽きざらん
優しき薫香遺しつ

二

真理の道の彷徨に
遊子は尋めぬ人性を
真紅に輝く森蔭に
榴火廻りて歌へども
琥珀の酒を酌みしかど
羸しものは何ならん

三

原始林の濃緑のまどろみに
高夢は結びぬ先人の
遺訓の蔭に洎あり
孤雁一たび大地に啼きて
驚き醒むる邯鄲の
草野に夕陽は既に没つ

四

秋の哀愁は旅の子に
ひとしほ沁みる夜半の月
悲恋の苦悩胸に秘め
北斗の光影に嘯けば
若き情熱の高鳴りて
凋落の世に響くなり

五

狂ふ吹雪に我が思索
託して進む三百の
児等の生命はみはるかす
北溟の曠野にこだまして
東の空は暁紅に染み
高き理想の旭日は出でぬ

六

楡の鐘声に逝く青春の
神秘を解かん花筵
朝はろけき旅を行く
郭公鳥よ永遠に
黒百合咲ける石狩の
汝が故郷を憶えよや